

2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">生物学 A</p>	<p>対象学科・学年</p> <p>文学部日文1回生 文学部英米1回生 文学部文財1回生 人間人社1回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">三浦 和彦</p>
<p>授業テーマ</p> <p>生物とそれをとりまく世界: 生物と「環境」</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>みずからの環境条件を激しく変化させてきた人類の現在を理解するために、生物とその環境との 40 億年ちかくの歴史を振り返る。単細胞生物の誕生に始まり、多細胞生物の多様な分化と、その系統をたどる。これらの舞台である地球システムを生物の視点から眺めることにより、「暮らし」と環境とのダイナミクスを理解し、みずから分析可能になるよう学習することを目標とする。</p>		
<p>評価方法</p> <p>通常の講義時の小レポートと小テストで評価します。</p>		
<p>テキスト</p> <p>環境再編 (エコ・リストラクチャリング)</p>	<p>著者</p> <p>国連大学編</p>	<p>出版社</p> <p>創芸出版</p>
<p>参考書</p> <p>里山の自然</p>	<p>著者</p> <p>田端 英雄 編著</p>	<p>出版社</p> <p>保育社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>前期予定 : 生物圏と『環境』</p> <p>第1回 生命の相互作用: 生命の誕生を「主体-客体」関係の誕生としてとらえてみよう。</p> <p>第2回 相互作用系: 細胞の構造と生命のメカニズムにおいて相互作用について考えてみよう。</p> <p>第3回 「環境」の誕生: 「作用と反作用」および「環境形成作用」とはどういうことなのだろうか。</p> <p>第4回 「環境」の変化と生命の進化: 生命にとって大気は何であったのだろうか。</p> <p>第5回 「環境」の変化と生命の進化: 生命にとって水とは何であったのだろうか。</p> <p>第6回 「環境」の変化と生命の進化: 生命にとって土壌とは何であったのだろうか。</p> <p>第7回 原核生物の誕生と適応的放散</p> <p>第9回 真核生物と藻類</p> <p>第9回 真菌類</p> <p>第10回 植物と動物</p> <p>第11回 環境圧としての物理化学的諸要素にはどんなものがあるのだろうか。</p> <p>第12回 環境圧としての生物圏: 生物は他の生物にとって邪魔者なのだろうか、協力者なのだろうか。</p> <p>第13回 環境圧と生活史: 発育段階理論からみると生物にとって生存リスクとはいかなるものなのだろうか。</p> <p>第14回 成長曲線とポピュレーション: 生存とか繁栄というのはいかなる成り立ちで生起することなのだろうか。</p> <p>第15回 資源生物の管理: 実際に絶滅しつつある生物種をわれわれは救えるのだろうか。</p>		